

1. 小島衣料の合弁縫製工場、「外資最優秀縫製工場」として表彰

Bangladesh 縫製品製造輸出業協会 (BGMEA) が、10月にダッカで開催した第24回 Bangladesh: Apparel & Textile 展で、小島衣料が Bangladesh で運営する合弁縫製工場の K&L は、2013年度の外資系合弁部門の最優秀縫製工場として表彰された。 Bangladesh から日本に輸出される婦人重衣料のほとんどが K&L の製品で「高品質の重衣料を生産している」と評価された。

《 受賞を喜び合う K&L 幹部 》 →



2. 衣料産業、賃金8割弱引き上げへ

11/04、 Bangladesh 政府の諮問機関である賃金委員会は、衣料産業労働者の最低賃金を約77%引き上げるよう政府に勧告した。委員会は現行の最低賃金月3000タカ(約3800円)を5300タカ(約6700円)に引き上げるよう求めた。しかし、労働組合は依然として世界の最低レベルから抜け出していないと批判。工場経営者らは「国際競争力を失わせる」と反発している。政府は同委員会の勧告に従い、11月中に賃金を引き上げる意向を表明している。

3. 独立時の罪で2 人に死刑

11/03、1971年に Pakistan から Bangladesh が独立した際の内戦の犯罪を裁く同国の特別法廷は、民間人殺害などの罪で、国外在住の2人に死刑判決を下した。2人は当時の独立反対派で、イスラム団体幹部の Choudhury Moinul Hossain 被告と Ashur Rahman Khan 被告。判決によると71年12月、独立運動をしていたダッカ大の教師やジャーナリスト、医師など計18人を殺害した。2人は現在、米国と英国在住で裁判には欠席していた。特別法廷は身柄を拘束し次第、刑を執行するとしているが、今後の手続きなどの詳細は示さなかった。法廷では今年1月以降、野党のイスラム政党幹部らに対する死刑判決が相次いでいる。

4. 元兵士152 人に死刑判決

11/05、 Bangladesh の特別法廷は、2009年に国境警備隊本部の部隊が待遇改善を求めて蜂起し、多数の死者が出た事件を主導したとして、元兵士ら152人の被告に死刑判決を言い渡した。反乱では、09年2月に兵士らが首都ダッカの同本部敷地内で将校ら70人以上を殺害し、民間人を含め多数の負傷者が出た。兵士らは待遇に不満を持ち、将校らが給与を横領していたとの疑惑が広がっていたとされる。また、特別法廷は反乱に関わったとして、約160人に終身刑を言い渡した。

5. 政府、観光開発に注力

商業大臣は、「政府は、観光部門の可能性を最大に生かすために、 Bangladesh 観光委員会 (BTB)」の創設を含め、様々なステップを踏んでおり、コックスバザールとクアカタは計画的な方法で観光に向けたスポットとして開発されている。政府はセント・マーチン諸島までの巨大開発をする。連絡システムを向上させ、衛生的な食事の用意、より良い宿泊施設そしてスタンダードなサービスが、 Bangladesh での観光産業のより速い拡大に貢献すると期待している。 Bangladesh には観光客を魅惑する広大な美しい自然があり、歴史的スポットがあるので、観光客の数も、日に日に増えており、この部門の可能性も次第に明るいものになっている」と、話している。

6. 中央銀行、縫製工場の安全基準向上のため、10億タカの基金を開設

中央銀行はアパレル部門の安全基準を向上させるために、国際協力事業団 (JICA) の協力で10億タカの基金を開設した。JICA、 Bangladesh 銀行、 Bangladesh 衣料メーカー及び輸出協会、 Bangladesh ・ニットウェア/メーカー及び輸出協会そして住宅公共事業省が、この契約に署名した。 Bangladesh 銀行総裁アティウル・ラハマンは、「商業銀行は利子率を低く保つべきである」とダッカのウエスティンホテルで語った。JICA のシニア・プログラム・オフィサーである Anisul Hossain Choudhury は、「銀行が資金を是認する前に、JICA の技術チームと住宅公共事業省のエンジニアたちが融資希望者の工場を検査し、経費のコストを推定することになっている」と語った。銀行の規則により、個人融資の最高額は1億タカである。

7. 世界著名ブランド企業、下請け工場リスト公開

世界の著名ブランド企業は、バングラデシュで働く衣料労働者の安全のための協定に署名した。90社にのぼるそのほとんどがヨーロッパのものである。最近、彼らは、ファッション衣料を早く生産するために彼らが使っている 1,600 の工場のリスト公開に応じた。リストにある工場は、「バングラデシュの火災と建築安全に関する協定(AFBSB)」の安全ネットでカバーされている 200 万人以上の労働者を雇っている。この協定は、1,129 人の死者と多くの人々を不具にしたダッカの近くのサバルで起きたラナ・プラザ崩壊事故の後、5 月に策定された後、ヨーロッパで討論され、主にヨーロッパの著名ブランド企業により署名された。AFBSB は法的に束縛力があるプロジェクトであり、深刻な安全問題が見つかった工場を検査し改良することができる。

数年の間、北アメリカとヨーロッパのファッションブランドは、安い労働賃金と移り変わるファッション需要にあわせてオーダーをすばやく方向転換できる能力のために、バングラデシュの縫製工場を使用してきた。会社はひとつの工場と生産の契約をしているが、その工場はもっと早く生産するために、他の数個の工場に下請け生産をさせている。さらにこれらの下請工場も他の工場へ仕事を依頼している可能性がある。ラナ・プラザの崩壊とタズリーン・ファッションでの火災の前、欧米の会社は彼らの製品が本当はどこで作られているのかわからないと時々訴えていたこともあった。AFBSB の結果、今後、消費者は、この会社が協定に署名しているかをチェックすることで確認できる。

8. 縫製技術学校第1期生、卒業

ガジプール・テクニカル・スクールアンドカレッジ(TSC)は、マシンオペレーションの第1期生に卒業証明書を授与し、わが国の既製服(RMG)部門の有力な人力を育てるために、引き続き第2期生を受け入れることとなった。衣料産業労働者を育てる訓練の動きは、ファー・イースト・ニットイング・ウェア、ガジプールTSC、CAREバングラデシュ、IDLC、インターファップ・シャツ製作、TRZ グループ、そして国際労働機構(ILO)による新企業社会責任(CSR) パートナーシップの下で始まった。ファー・イースト・ニットイングの代表取締役アシフ・モイーンは、彼の会社とIDLCがトレーニング・プログラムの費用を持つことを表明し、「第1期生の労働者たちはファー・イースト・ニットイングを含め、様々な工場で既に職を得ている。第1期生に証明書を発行すると同時に第2期生を受け入れる。われわれの目的は、疎外された土地での職業不足を考慮し、ノースベンガルの労働者たちに職業を創出するためである。第1期生は最初の段階で最低5,000タカの賃金を受け取ることにしている」と、語っている。

9. BATEXPO 10/10開始

10/10からシュナルガオン・ホテルにて、地元アパレル製品を陳列して、第24回バングラデシュアパレル及びテキスタイルエキスポ(Batexpo)が開始される。二つの最悪の工場事故の後、衣料メーカーは今年特にイメージを取り戻すために、壮大な方法で恒例のエキスポを開催する計画を立てている。BGMEA がスポンサーとなっているこのエキスポは、バングラデシュ製作アパレル・アイテムを陳列し、海外の小売業者やファッションデザイナーそしてブランドに紹介している。バングラデシュメーカーは製品の多様化にも焦点を当てている。このイベントの参加に興味を示しているバイヤーが増えているので、ショーでの注文は去年の 6,167 万ドルをしのぐものと見られている。国内国外のメーカーは、アメリカ、カナダ、香港、イギリス、タイ、インド、中国そしてパキスタンからのバイヤーに、エキスポでの 80 の出店でそれぞれ彼らの製品を紹介することになっている。しかしインドルーピーの為替が下がったこと、そしてバングラデシュの最強ライバルであるベトナムによる、より多い輸出のために、今回は厳しいものになるであろうと予想されている。

10. バングラデシュ経済への IMF チーフの提言

IMF ミッションのチーフ、ロドリゴ・キューベロは、「外貨収益の主な源である衣料部門は、将来もバングラデシュの経済成長の柱であり続けるであろうが、安定した経済成長のためには、インフラ、パワー、交通部門のさらなる向上がなければならない。チャッタゴン港の効果増大や 4 つのレインにつながるダッカーチャッタゴンハイウェイ向上も重要である。加えて、他の国々に比べるとバングラデシュ生産性が低いことが懸念材料の一つとなっている。労働者の生産性はスタンダード・アラウド・ミニット(SAM)により計られる。例えば、仕事を完成させるために 100 分与えられたとすると、バングラデシュの労働者はわずか 35 分を使うことができこれは SAM スコア 35%が与えられる。これは世界の中でも最も低いスコアの部類の属する。これに対し、中国、ベトナム、インドそしてパキスタンなどグローバルアパレルの競争相手は、80%までスコアを上げている。競争国が提供している賃金よりバングラデシュでは低いこともあり、これが低い生産性の大きな理由となっている。バングラデシュは衣料部門で生産性を上げることでよい為替レートを保つことができる。高い生産性はより多くの利益を確実にできるからだ。国営の銀行が立つ楽をしていることも経済に対して懸念されることである。外部的な予想として、欧州市場の成長がスランプであることも語った。このことはバングラデシュへの衣料注文の流れを抑制させることになるかもしれない」と語っている。

11. 衣料産業労働者に適切な賃金を

バングラデシュ銀行総裁アティウール・ラハマン氏はアパレルメーカーを訪れ、「衣料労働者たちに標準的な生活ができるように適切な賃金を支払い、オーナーたちは労働者たちに歩み寄り、国の外貨収益部門をより強力にするように、労働者たちに誠実に働くように呼びかけるように」と強調した。彼は政府も訪れ、この件に関して適当なステップを取るように言った。アティウールは、「バングラデシュ銀行は欄外レベルの人々も収入経済に含めいくつかのイニシアティブをとっている。農業を営む人々には 10 タカで銀行口座が開ける機会が与えられた。そして全部で 960 万人もの農民がこの体系の元で銀行口座を開いている。その上バングラデシュは RMG 労働者と革産業に携わる労働者にも、この機会を広げたので、革産業と RMG 部門の労働者たちは 100 タカでも銀行口座が開ける機会が与えられている。銀行口座を開くことだけが、お金を預ける機会だけではないが、市民の快適さを確実にする方法である」と、意見を述べた。

12. 今こそ衣料メーカーのビジョンを語るとき

分析家たちや衣料企業者は、バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会によって、シュナルガオン・ホテルで企画された話し合いで意見交換をし、「衣料メーカーは、今こそ彼らのビジョンを語り、最近起きた工場災害で壊されたイメージを取り戻すためにもっと強いコミュニケーション戦略をとり、衣料産業部門をブランド化するべきである」との結論に達した。労働者基準の工場への道の提案意外にも、スピーカーたちはこの部門の達成や可能性を見せるために、メディアが果たす大きな役割について言及した。ファイナンシャル・エクスプレスの編集者モアッゼム・ホセインは、この部門に関しての情報が自由に流動していくことを提案した。BGMEA の元副会長ファルク・ハッサンは、「女性に力を与え、バングラデシュの経済の状態を向上させるのに、もっと重要な役割を果たしてもらわなければならない」と言った。

13. 逆境でも衣料品輸出は好調

衣料品輸出は、国内で混乱が起きながらも、国際市場での競争価格のお陰で、今年度の最初の 3 ヶ月の間に大きな成長を記録した。輸出推進局からのデータによると、7 月から 9 月の間ニットウェアの輸出は 1 年前に比べ 24.43% 上昇し、31 億 6 千万ドルをかき集めた。織物衣料は 1 年前に比べ 23.89% 上昇し、30 億 5 千万ドルの収益があった。全体的に輸出は 9 月には約 26 億ドルまでに上昇し、去年の同じ月よりも 36% 高くなっている。数字はこの月の目標とされていた 20 億 4 千万ドルよりも 36% 高い。2013-14 年度の最初の 3 ヶ月で輸出収益全体は 76 億 2 千万ドルであり、これは昨年度と同じ時期より、21% 高くなっている。政策ダイアログセンター (CPD) の重役ムスタフィズール・ラハマンは、「このように好調な衣料品ビジネスを持続させるために、政府を含め全ての関係機構、小売業者そして衣料メーカーは火災とビル安全協定を遵守するべきである。衣料メーカーは職場の安全を確保するべきであり、今回新たに起きたパルマル・グループでの火災のような繰り返しは、小売業者に間違ったシグナルを送ることになるであろう」と語った。

14. ガジプール縫製工場火災で 7 人死亡

10/08 夕、ガジプールのスリプールで発生したパルマル・グループのアスワド複合ミルの火災では、少なくとも 7 人の死者が出た。警察当局は、調査のために、7 人のメンバーによる委員会を作った。シニア消防幹部は、「火災は午後 5 時 45 分ごろ工場の染色セクションで発生し、2 階の化学貯蔵庫に広まった。1 階のボイラーも過剰の熱で爆発し、火は他の階にも広がり、悲劇を起こした」と語った。ガジプール、マワナ、カリアコイルそしてマイメンシンのバロカなど様々な消防局からの消防団たちが、火を消すために駆けつけたのは、10 時間にわたる地元の人たちや警察の死に物狂いの努力のあとであった。工場のディレクター、エムダド・ホセインは、レポーターたちに、「火災が発生した時、170 人の従業員が二つのフロアで仕事をしていました」と語った。もう一人の工場のディレクターであるエムダド・ホックは、「火災は仕事が終わった後発生した。火災で死亡した従業員の家族それぞれに、30,000 タカと埋葬する費用を支払う準備をしている」と発表した。

15. バングラデシュ衣料品生産は中国からの受け皿

度重なる工場事故にも拘らず、バングラデシュは世界の著名ブランド衣料小売業者たちに、バングラデシュが提供できる安い価格のため、見捨てられずにいる。生産コストの上昇と労働力不足のため、アジア巨大国の生産コストは急上昇し、現在バングラデシュは世界で一番大きなアパレル輸出国中国の代わりになると考えられている。小売業者がバングラデシュを好むほかの理由として、バングラデシュは多様化され、価値が付加された製品を生産していることもあげられる。価値が付加され、高級な製品はバングラデシュのアパレル輸出全体の約 30% を占めている。このようなアイテムの需要は欧米諸国の顧客の間で伸びている。イー・フェスティバルを控え、今年のショーは前年に比べると貧弱なものであったと参加者は語った。「ビジネスはまあまあである。バイヤーからの反応は、今年は前ほどは良くなかった。バングラデシュの競争力は、中国がそのビジネスを失っているため増加している」と、ショーに参加するためバングラデシュ

にやって来た中国の企業家ザング・フアは言った。バングラデシュ大手衣料メーカー・ナッサグループの副ジェネラル・マネージャー(マーケティング)ヌルール・アインは、「バイヤーは工場事故の後、コンプライアンスについてとても慎重になっている。しかし彼ら(バイヤー)は地元メーカーが安全規格を守るのを援助するために、価格を上げることも申し出ている」と語った。

16. 衣料品製造工場、火災安全対策不足で訴えられる

公式検査チームは、特に火災問題に関して十分な安全対策が取られていない 53 の衣料品(RMG)縫製工場を訴えた。また 1,500 の工場にもっと状況を向上させるよう要求した。しかし、これらの工場での再検査は人材不足のためほとんど行われていない。罰金の最高金額は 5,000 タカであったが、最近改正された労働法で 25,000 タカに引き上げられたが、検査チームはこの罰金額はそれでもまた低いと言っている。

短期間に二つの火災事故が起き、これは国内国外両方で大きな注目を浴び、産業のイメージ危機に導いた。そしてラナ・プラザの崩壊は工場のビル建設の安全という新しい問題を投げかけ、この溝を深めていった。工場と店舗の検査員を含む 23 のチームは、1 月 31 日から衣料メーカーの検査を行っており、要求されている安全基準にに対応しているかどうかみている。合計 4,431 の工場と企業が検査された。これらのうち、80%がアパレルメーカーの下請け工場である。最近、401 の衣料工場が検査され、チッタゴンの 16 の工場が訴えられた。電気回路の問題、階段の数、屋上の 25%の空間、そしてライセンスの問題など、主に火災安全対策が十分でないために控訴されている。検査チームは人材や専門家が不足しているため、火災安全関係の問題に焦点を当てているのみで、ビルの建設安全問題のほうには焦点を当てていない。

以上